

北播磨新地域ビジョン検討委員会・第1回起草部会 議事録要旨

- 1 日時：令和3年2月24日(水)14:00～15:30
- 2 形式：対面（一部オンライン）会議
- 3 出席者：
委員：内藤会長、田中委員、松本委員、山本委員
（オンライン出席）：奥貫委員
県側：上田局長、野村副局長、須貝室長、小林班長

4 内容

議題について協議

[会長]

・最初に議題1、北播磨新地域ビジョン構成の修正案について、事務局より説明をお願いします。

[事務局]

・資料1、資料2について説明。

[会長]

・最初に章立てのことにについて意見をいただきたい。前回、1月26日の検討委員会から5章と6章の順番を入れ替えたことについて、補足をお願いします。

[事務局]

・5章と6章の入れ替えは、事務局で判断した。多くの聴取した意見を大潮流により、この地域がどのような変化になるのかを踏まえた上で、目指したい将来の方向性を柱立てした方が、よりイメージができるのではと考えた。最初は、先になりたい姿を柱立てして課題を考えた方がいいと思ったが、やはり大潮流を踏まえた上で、これを北播磨に置き換えて考えていくと必然的に課題から方向性をイメージしやすくなるのではないかと考えたので、入れ替える案を提示した。

[会長]

・2章に北播磨の現状とあるが、現状を把握するためにどんな課題を抱えているのかを一緒にした方が、章の連携がわかりやすいのではないかと。1章で今までの経緯、新ビジョンを策定するにあたっての理念等を述べて、2章で現状、課題を踏まえ、3章で世の中の大きな流れが、第5章のようになるという考え方で、そして第3章の大潮流を考慮に入れ、現状等と合わせて今までのアンケート等での意見から、共通の思いを紡ぎ出し、それから柱を作っていくと、章立てがわかりやすいかと思う。

[委員]

・今の会長の発言と関連するが、ビジョンを考えるときには、現状、課題があり展望へと大まかには考えるものだと思うが、2章で現状、3章、4章は、課題を意識してのこと、5章、6章が展望ということだと思う。大きな構成としては、現状、課題、展望ということになるが、この資料は項目だけなので詳細がわかりにくいので、例えば覚書き程度に、これが課題、このあたりが展望と示しておけば、それを意識しながら各項目の中身が具体化されると、ビジョンとしての構成としてはいいのではないかと考える。

[会長]

・現状、課題、展望という大きな流れの中で考えていければという意見だと伺った。

[委員]

・先ほど委員から話があったが、現状があれば当然課題がセットになってくると思う

が、課題を出そうと思うと当然目指す姿があり、その現状とのギャップの間に課題を置くのかなと思う。どこに向かい、何をもって課題とするのかということと、課題をどこに構成させるのがいいかを考えていた。

ビジョン2020の冊子の目次を見ると、大潮流の説明があった後に、北播磨の新たな地域課題という形で進められて、次に将来像という形になっていた。今の第5章のところで課題が書かれているのが、もし第2章に課題を入れるのであれば、何と現状との対比のもとに課題と書くのが大切かと考えている。

[会長]

・課題を何に対しての課題かということで、置く位置が変わってくるのではないかと
いう指摘だった。

[委員]

・今の話で思うことだが、第4章のところで、ビジョンアンケート、ビジョンを語る会、地域デザイン案の共通する想いということで、項目が上がっているが、おそらくこの中に、指摘があった課題や、或いは展望、目指す姿のようなものが表れてきているのだろう。しかし、この流れでは、多くの人々の声を基にした現状や、或いは今後の方向性のようなものを、どこに示していくのかということが、わかりにくい構成になってしまうと感じる。

1章から3章までの記述は統計的な印象であり、実際に参加した人たちの想いであるとか、或いはビジョンや展望というようなものについては、そこからは読み取れない感じになる。4章の項目として自然環境や、人の繋がり等のようにまとめるのではなく、各章の中にどのように分散させていくのか、各々の人達の意見をどのように反映させていくのかが、一つ大きな課題かもしれない。統計記述は必要なことではあるが、地域ビジョンを創っていく上では、やはり多くの人々の意見や、時には少数意見も含めた記述が重要なと思う。

[会長]

・今の意見は、3章と4章の間に少し溝があり、4章を少し膨らます形と、せっかくだ
いただいた意見をそこへ、或いは他の項目のところでも反映させたらどうかというこ
とだった。

[委員]

・今の2名の委員の意見が、先ほど私が申し上げたことを具体的に話した話だ。この構
成を考えた際、大きな括りは現状、課題、展望であるが、課題をどこに、何章が課題
かということではなくて、2章は現状を踏まえて見えてくる課題、3章は大潮流の中
から考えなければいけない課題、4章はアンケートやビジョンを語る会などから見え
てくる課題。そして、2章、3章、4章の項目全てに課題があり、課題の章をつくる
というよりも、各章で各々具体的な課題が記載されている方がわかりやすいのではな
いかと思う。それを2章、3章、4章での各項目で課題を明示した上で、第5章で課
題を具体化したものを踏まえ、6章7章で展望を考えていけばいいのではないか。

私が先ほど大きな括りとして課題と申し上げたのは、今日の資料は項目だけなので、
項目に従い具体的な記載をする際に、課題があるということを意識されていれば、冊
子の体裁が一般の人が読んでもわかりやすくなるだろうということを申し上げた。

[会長]

・現状と課題ということで、5章は、3章と4章で出てきた課題を書くということ
でよろしいか。事務局の方どうでしょうか。

[副局長]

・委員の意見では、現状があり、あるべき姿があり、そのギャップが課題だという定

義の課題と、各章で（例えば）こういうことがあって、少し気をつけないといけない点があるという課題とは、課題の概念が違うという気がする。

委員の言われるのは、大潮流の動きがあるのでこういうことに注意しなければならない。アンケートで皆が今、この様な事を不満に思っているというような事が出てくる。皆が持っている問題意識だとか、大潮流で出てくる視点、これから気をつける視点を示した上で、委員が言われるような形で、5章で整理をして項目として立て、これについて目指すべき姿はどうなるのかという方向性を示す整理でいいのか。

委員が言われる課題と捉え方が違ってくるように思う。

[委員]

・私は、現状があり目指す姿がありそのギャップが課題だと、一般的な話をしたが、委員の意見を伺いながら、先程の話では5章に課題の具体化、2章、3章、4章の各項目にはこういうことが問題になる。住民の意見も踏まえて課題や問題意識ということがまとめられた上で、5章で課題を整理し具体化する章が設けられるのであれば、そこが課題のまとめりになり、どこに向かっていくのかと言ったところと繋がりがよくなるのだろうと思うので、私が先ほど申し上げたことと齟齬はない。

[委員]

・今の話は非常に重要なことだ。各々の観点からの課題がある。それぞれの観点というのは、大きな統計的なものも含めた提示もあれば、それに関連したアンケートや語る会などから出てきたもの、それぞれがおそらく繋がっている。各々の観点の課題が出てきたら、繋がっている統計結果・意見を一つの章としてまとめていくような、章立てが必要だと思う。それぞれの観点はバラバラであっても、どういう課題があるか、バラバラの観点を一つにまとめた章立てをして、その課題や方向性をどのように具体化していくかをビジョンとして立てていくとよいのではないか。これは、目指す姿とのギャップの中に反映されていくものなので、一つにまとめて示していく章が必要になると考える。私も委員に同感だ。

[会長]

・2章の現状から出てくる課題というのではなく、それまでの章での課題などを5章でまとめて将来像へ入る構成で、課題のとらえ方を変えるということによいか。

[委員]

・例えば2章なら2章に関連する項目についての意見があったと思う。そういうものは2章にまとめていくというイメージだ。この資料では、第4章の中に、アンケートや語る会で出てきたものが全部まとまって入っている感じだ。そうではなく、各々の章に、この様な意見が関連して出てきていると、実際の審議の中にもこういう考えがあるということを示していくほうがよいと思う。それが一番まとめり良く、読む側が読みやすいのではないかと思う。

[会長]

・それぞれの章で課題や意見も頭に置いて書いていくと、一層、理解も深まるのではないかということですね。

[委員]

・先ほど事務局の話で、「課題」というものの定義が、今出てきているものと違うのは、先ほど委員が言われたように、現状とのギャップとの関係で出てくるのは「問題点」だと思う。

先日あった未来フォーラムなどで挙げられたのは、「問題点」というよりもあるべき姿を考えたときに解決したい問題ということで、それが課題だろうと思う。従ってその「問題点」と「課題点」がありそれを課題と言っている。ギャップとの関係でい

うと、現状との関係では問題がある。将来のあるべき姿を想定したときに考えなければいけないものが課題として出てきて、課題の根拠になるようなものが、実際に報告されている大潮流としての現状の問題と、アンケートや語る会などで出てきている夢との関係での問題点。それらをまとめると、今回、新地域ビジョンを構成する際の課題としては、具体的に第5章に出てくる関係になるのだろうと思っている。今の課題をどうするかということに関して言うと、各項目に関してどういう書きぶりをするかが問題だろうと思う。その書きぶりが課題を意識されたものであれば、読む側も各々の章で浮かび上がってきた課題を考えながら、30年後のあるべき姿を想像するのであれば、理解しやすいのかなと考える。

[会長]

・いろいろ意見をいただいたので、まとめをよろしく願います。それでは章立てに関する事、章の中の小さい項目の事等について意見を出してほしい。

[会長]

・第3章の大潮流に、気候変動・風水害という項目について、そのような実態があるという観点から書いているが、その元は環境の問題だと思う。いわゆるゼロエミッションやカーボンニュートラルというようなことも言われているが、そういう裏にある原因が、大潮流に項目があがっている。すぐ実践に結びつくような言葉の方がいいかと思う。以前は、環境と産業は対立概念だったが、今は、産業も、地球を守るためには環境に配慮した活動をしないと成り立たないという観点があると思う。日本はその観点が抜けていたと思う。そういう観点の書き方がわかりやすいのではないかということで、一つ上げた。

[委員]

・少し印象を述べると、何となく課題が大きくて、その課題をどのように克服していくかといった感じの項目立てが多いという印象がある。もちろん温かな人の繋がりや、豊かな自然環境のようなことは、前向きな方向ではあるが、何かすごく大きな課題があって、それをどう克服していくかというような方向が多いような感じがする。例えば、参考資料のビジョンを語る会の実施結果の中にある意見には、「フランスのブルゴーニュを超える地域に」や、「地域が持つ個性を発信する」、「北播磨全体で一つのテーマパークのようになる」といった、すごく夢がある言葉がいっぱい出ている。このような意見を何とか拾い出せないかという気がする。課題があり、この課題をどのようにうまく克服していくのかという印象になっていて、夢という感じがしない。それが項目の立て方の印象だ。30年先を考えようとするのであったら、夢のあるものをゴールに置いて、それに向けてどのように進んでいくのかという展開を示せば、わくわくするものになるのではないかと思う。

[会長]

・するどい指摘だと思う。ビジョンを策定することによって困っていることを解決するのも大事だが、未来が見えるようなものが皆の意見の中にあり、まとめて一つの文に組み立てていけばいいのではないか。

[局長]

・今の指摘だが、実は先日の未来フォーラムの中においても、ビジョン局長が現状から導き出されるのは置いておいて、将来の夢を語っていただきたい。或いは副知事も田中先生もその場で、どうしても現状に引っ張られてしまっているとコメントをされていた。だから我々としてはビジョン局長が話した通り、現状は置いておき、30年後にこんな地域になったらいいよねという夢を、皆で導き出したいと考えている。それは、今話されたブルゴーニュの夢もそうだし、また他の形で、将来的にこの地域が

夢のあるものになりたいというものだ。打ち出したい課題は克服していかなければならないがそればかりでは夢がないので少し置いておき、我々としては先生方との議論の中で、これは面白いねというのを拾い上げていきながら、一つの夢を抽出したいと考えている。議論していく中でキャッチフレーズができ、皆が取組んでいくような形になればいいというのが局長としての思いだ。

[委員]

・私たち科学者、研究者は課題、又は解決すべきものということ、最前提にして課題を立てる発想になるが、課題という言葉が少し誤解されている。先ほど課題の定義と言ったが、いわゆる解決すべき問題は問題点ということで置いておき、私は先日の未来フォーラムでのことを引き続き話したつもりで、委員の言われるように、ここで言っている課題というのは、わくわくするようなということも含めて、30年後こういう姿を見てみたいということ、課題と言葉で表現するのが悪ければ、「望ましい姿」、「あるべき姿」、というようなことにして、現状から出てくる問題点と、「望ましい姿」としての意識になるのだろう。

課題だと誤解されるといけないので、「望ましい姿」の提示は近々に解決すべき問題点として挙げられているのではなく、30年後までに様々な変化があることを前提に、30年前の現在に望ましい姿に向かって行くためのプロセスを提示するものである。この姿は、これまでの夢会議や前回の未来フォーラムにも関連性して意識しており、今の段階では構想というレベルで、冊子を作る際に読む人たちがそういう意識を持ちながら読む、要は書きぶりの問題だろうと思うので、あまり具体的に今、各項目について議論するところではないと考えた。

[会長]

・今、これが夢で、これが課題と分けるというのではなく、基本的には夢があるような形で、皆さんに提示していくのがいいのではないかとということであった。

[委員]

・今、委員と同じような意見だが、未来フォーラムや、昨日出席した全県ビジョンの会議でも感じたが、現状から考えると人口減少等々で課題や難しい問題がある。でも30年後のビジョンを策定する際には、北播磨が30年後、わくわくして魅力がある地域でないといけない。最後にこの冊子を読み終えたときに、北播磨がすばらしくなると感じられ、子どもたちにとって、わくわくする魅力のある北播磨でなければならぬと思う。現実問題として非常に難しいことはあるが、夢物語すぎないもので、ビジョンとして夢のある方向に持っていく方が、読み手としては楽しいと感じる。

[委員]

・話を聞いていると、北播磨に住んだり関わったりして、やっぱり人としての幸せや喜び、わくわく感といったものは普遍的なことであり、それは必要だと思った。また、大潮流に対する様々な問題になりそうなことに対しては、望ましい姿・状態／目指していきたい姿・状態を提示しつつ、チャレンジや挑戦として何か皆で工夫して乗り越えていくプロセスを描く。そうしたことはこの北播磨に住んだり関わったりする中で実現できるんだという、挑戦やチャレンジ的な意味合いで書いていくと、前向きな気持ちになれるのではないかと思う。

[会長]

・大潮流について、前向きになれるように考えたらどうかということだった。それでは時間の関係もあるので、二つ目の議題に入る。資料4について、事務局お願いする。

[事務局]

・資料4は本日の論点であるが、委員からの意見も出ているところだ。ビジョンアン

ケートと語る会と地域デザイン案で出てきた今までの意見を、別紙に事務局案としてまとめたものを3つ記載している。この項目については、例えば、将来全県ビジョンの将来構想試案だったら未来シナリオ等の書き方もあるが、当県民局は今まで集めた意見の中からキーワードなどを取りまとめて、地域の方が思っている共通意識を整理する項目として第4章を設けている。事務局が提示している1から3までが、先ほどの話で夢のあるような打ち出し方や書き方が良ければ修正したいと思う。たたき台で提示しているので、打ち出し方は議論いただきたい。ビジョンアンケートと、デザイン案、語る会の資料も踏まえて、この他に必要なことも議論していただきたい。

参考資料に今後の予定として、この第4章の共通する思いは、今日の議論ではまとまらないので、3月も第4章の議題とする予定だ。今日の議論の後、補足する考えが出てくることもあるので、3月も併せて考えていきたい。

[会長]

・それでは資料4にある、今までのアンケートで地域の方々の思いをいただいたが、その中から共通している思い、あるべき北播磨の姿を思い浮かべながら、皆が何を願っているのかを目的に、提示していくということだ。豊かな自然環境保全等と出ているが、こういう書き方も含め意見いただきたい。

[委員]

・1番と2番を見て思ったが、アンケートの中に、ほどよい田舎という表現がたくさん出てきたと記憶している。ほどよい田舎って一体どういうことなのかといったところかを掘り下げられるといいのではないかと以前にコメントしたが、1番や2番というところは、ほどよい田舎と関連しているのではないかと思っている。それは、地域の方々が自ら出されたワードであり、田舎でもなく都会でもないなど様々な言葉がある。それらをうまく紐付けながらエッセンスをしっかりと出した上で、後半にどう生かしていけるか、と思ったことが1点だ。

もう1点は、若者が参加された地域デザイン案の資料の最後の方にあるキーワードや、キーセンテンスから思ったことについて。個人の自己実現、つまり個人が北播磨に暮らしたり関係したりすることによってどんな幸せや喜びがあるとか、またわくわく感も含めて、そういったことを表すような項目が必要ではないかと思う。どういう文書を書くかとか、キャッチをつけるかというのは、そのあとの落とし込み次第だが、多様な人材、多様な働き方、生き方、暮らし方ができ、人材が活躍し、生涯にわたって学び続けていけるような地域である（目指す）という内容や項目があるといい。併せて、北播磨では個人として、又は周囲の仲間と一体どういうことができるのか。先ほど私が申し上げたチャレンジできるとか、当然失敗も含めていろんなことができそうとか。個々人がここで暮らしたらワクワクするだろうし、面白そうだから何か自分も成長できて周りにも関係できるのではないかとか、そういったことを思わせるような項目が追加されるといいなと思っている。

[会長]

・この豊かな自然環境の保全では、委員が話された、ほどよい田舎だとイメージが浮かぶ。ほどよい田舎で、幸せや癒しをイメージできるものがあるのではないかと思う。特に若い世代が豊かな自然環境を残して欲しいということが非常に多かった。この豊かな自然環境をもう少し見直さないと他から人を呼び込むことにはなりにくい。豊かな自然環境をどういうふうに生かすのか。多可町では健康都市多可と言われ、自然と健康を増進する場所としてアピールしている。魅力を高める方策をまとめると良いと思う。もう一つ、色々学べるということについては、兵教大や関西国際大もあり、この様なリソースを入れたようなものがあればと感じた。

[委員]

・やっぱり地域資源の再発掘、或いはそれをどのように北播磨一体としてつなぐかということだと思う。山田錦について記載されているが、それがブルゴーニュと繋がるとか、あとは播州織のような地域の特色になるものがあり、それをどのように再発見していくのかなどがあるだろう。歴史的な史跡も多くあるけれど、まだ整備されていないという意見もあった。そういうものを各市町が単独で発信するだけではなく、それらを繋ぎながら北播磨としてどのようにアピールしていけるか、或いは魅力に繋いでいけるかといったものが、一つの方向性としてはあってもいいのかなと考えた。

[委員]

・多可町の森林を歩く健康ウォーキングは、当初の参加者は地元の人だったが、今は毎週、30名、40名と遠方から多くの方が来ている。市民農園も、常に空き待ちの状態だ。コロナ禍ということも大きな原因かもしれないが、全体的に自然回帰といった現象が出ている。また休耕田や山林を、都市部の若い人達がグループを組んで、購入しているとよく聞く。アンケートの中にもあった、ほどよい田舎、田舎すぎず都会でもないというこのキーワードは、今後の北播磨の将来を表している言葉ではないかと思う。

[委員]

・今のこの第4章というのは、ビジョンアンケート、ビジョンを語る会、地域デザイン会議からということで、先ほどの課題や問題点というところで言うと、「望ましい姿」を考えるための章となる。資料の項目で言うと、その項目が豊かな自然の場合には安全なまちへの期待、温かな人との繋がりの場合には、受入れ可能な環境づくりと関係人口が循環する地域とあるが、これはアンケートの中にも、ビジョンを語る会やデザイン案の中にも出てきているものの、期待を持てるようなものを中心に取っ出そうという章のように見える。それ以外の問題点というのは、この三つの会議等に出てきた問題点というのが地域の方向性として具体的な課題、人口減少問題、高齢化問題、空き家問題、自然保護の問題、雇用の問題、交通インフラ問題というように挙げられているので、5章とは区別されていると考える。この4章はそういうことが出るようなものをこの項目に挙げたいということで、ビジョンアンケート結果とビジョンを語る会と、地域デザイン案の中を見ていくと、前回、ビジョン委員会企画部会の時に私が事務局に伺ったことは、ビジョンを語る会や地域デザインはアンケート結果の報告を前提に話が進んでいるということだったので、最終的にこういうのが出てくるのは、若い人達も含めたデザイン会議だと思う。そのように見ていくと、資料4のデザイン会議資料の最後ページにA3で1回目から5回目までがまとめられており、非常に見やすく、特に第4回目でまとめられている個人の自己実現、多様性・共生共存、子育て・教育、自然・農業、これが項目として、全体の4章の共通する思いでまとめられるのではないかという気がする。例えばその思いが何かと言うと、第5回目のキャッチコピーを見ると、のんびり、あったかい、グローバル、べっちょない、恋しい、帰りたいというようなこと、それからちょうどよい田舎、ほどよい田舎、ボチボチ田舎とかいうようなことがあり、そういうものを全体として表現しているのが第4章のことなので、具体の例として挙げている豊かな自然環境の云々にするのか、デザイン会議第4回で大きく四つの項目に分けているので、これを項目にして整理する方法がまとめやすいのではないかという気がする。

[会長]

・ここに4つ出ているが、個人の自己実現、多様性・共生共存と、あとの2つ、子育て・教育、自然・農業というのでは、项目的に少しジャンルが違うので、整理し直さ

ないといけないのではないかなと思う。

[委員]

・私もこのデザイン会議のA3資料に着目していた。これからの30年を一緒に歩んで創っていく方々の目線が大事だと思っている。抜けていることは、今回県民局で示された別紙の3関連だと思う。これはなぜだろうと思っていたが、地域デザイン会議参加者は民間セクターの方が沢山いなかったのかもしれないと推測する。やはり地域経済は地域でお金を産んでいく産業を育てていくという要素を、地域デザイン会議ではあまり議論されなかったと思っているので、地域内で経済循環させていくことや、地域外から収入を得ること等の要素は必要だと個人的に思っている。

[会長]

・この項目に、産業や経済の視点の項目を追加する意見と伺った。この豊かな自然環境は、観光資源にも産業資源にもなり得る。もう一つ思うのは歴史文化だ。歴史や文化がたくさんあり、国宝も重要文化財も、民俗文化というような歴史遺産もたくさんある。おそらく加古川が影響している。各時代にわたる遺跡も沢山ある。そういうものを北播磨一帯でまとめて広報すればいいと思う。

[委員]

・先ほどの第1議案の話になるのかもしれないが、資料3に戻ると、一番左端にデザイン会議があって、ビジョンを語る会等があり、そのあとテーマが縦に並ぶ。その横にあるべき姿というのがあって、「あるべき姿」という表現が、本来こうあるべきでしようといったような印象を持つ言葉になっている。例えば「目指す方向」とか、「望ましい姿」というのも何か真面目すぎるかな。（「なりたい姿」？）みんなでこういうものを目指そうといったような、何かそういう表現ができないかなと思う。そうすると、先ほどからいろいろ出てきているものがもっと示しやすくなるのではないかと思う。「あるべき姿」では、「本来あるべきなのはこうでしょ。だけどそうになってないよね。」という感じの、先ほどの、例えば、交通インフラが不便とか、人口減をどうするといった課題に対する表現の仕方になっているのではないかという気がする。表現の仕方として、「あるべき姿」というのを変えませんかという提案をしたい。

[事務局]

・表現がよくなって、ここでは先生が言われるようにあるべきという言葉ではなく、夢のある「こうなっていて欲しいな」という姿を描こうということなので、方向としてはそういう方向で考えたい。

[委員]

・「べき」という言葉は、本来あるはずのものというニュアンスを持つので、ここではあまり使わない方がいいと思う。目指すべき方向とか、よく言うけれど、そういうのも同じようなニュアンスになるような気がしている。

[会長]

・あるべき姿の表現のご指摘は、私もそう思う。目指す姿というのはどうか。みんな目指していく、そこへ頑張りましょうというような、能動的な感じの方がいいかもしれない。

[委員]

・その考えがあったので、私は、先ほどあるべき姿という言葉で、望ましい姿という表現に変えた。この望ましいというのは、望むべきということではなくて、望みたいとか、夢を感じる時の言い方なので、あえて先ほどは望ましい姿という言い方をした。

[会長]

・望ましい姿というのは、日本的で情緒のある表現だ。目指す姿といえは欧米的な、とにかくアクションでいかないといけないというような感じがする。

[事務局]

・アンケート等を見ると、多く出てきた意見は、交通インフラの問題。また、欲しいものというところでは、商業施設などもいろいろあり、そういうようなものを包括するような分野も一つ要るのかなと思う。生活の利便、便利がいいというようなこともいるのかなと考えている。

[委員]

・その通りだと思うが、方向としては「今」これが「不便」だから何とかしてほしいというようなことよりも、こういう「将来」の「姿」がある。そのために、どういった整備をしていけばいいのだろうという方向性、夢を実現するための環境整備というような項目がよいのではないかと。そうでないと、今の不便さのようなものを何とかしようといった考え方に、舞戻ってしまうような気がする。現状として指摘することも、大事なことは大事なことだとは思っているので、書きぶりということになるのだろうとは思いますが、発想の出発点を「未来の姿」の方から持ってくるのが大事なのではないかとと思う。

[会長]

・生活インフラの整備は、人口が減っていく中では、ある程度マストのことだと思う。その場合に、県の説明の中にもあったが、人口が減っているのをマイナスにとらえる発想ではなく、どれくらいまで人口を保てば、生活インフラを保てるのかということで、考えたほうが良いと思う。

[委員]

・利便性のことは私も気になっていたが、大潮流にあるように、先ほど項目の三つ目があり、四つ目と五つ目あたりを提案したが、実はもう一つ気になっているのが、テクノロジーとの関わり合いの部分と思っている。それは、書き方が非常に難しいが、生活の利便性の前提がテクノロジーの変化や価値観の変化により、移動に関する考え方や働き方もすでに変化しつつある。それが「ほどよい田舎」という地域の魅力と掛け算になってくる可能性もあるならば、今後の利便性を今の利便性のイメージで語れるのか？と思っている。その前提が変化してくる時に、生活の利便性というものをどのように表現をしていったらいいか。そこには、IT や技術テクノロジーの活用といったものを、ポジティブに変えていくということで、新しい北播磨での豊かさ、又は幸せな暮らし方の新しいイメージが、いくつか出せるといいと思っている。そのようなことは、若い人達が非常に敏感で自然に受け入れていくところなので、自分たちが活躍できるようなイメージを持ってくれるような気がする。

[会長]

・委員のご意見で、テクノロジーですね。若い人たちが入って、今の私たちがした議論を同じようにすれば、全く違うような発想で出てくるのではないかとと思う。

[委員]

・私だけではなく、委員も学生と接していらっしゃるの、若者が今回のオンライン授業においてもそうだし、働き方とかすべてが変化しているのを味わいながら経験し、どんどん変化していく波と一緒に学びながら向かっていくということ、当たり前のように受け入れつつあることをご覧になっている。今、会長が言われたように、議論は違ってくるのではないかとと思う。

[会長]

・本日の資料4につきましては、1、2、3番は地域デザイン案を取り入れる案がありましたが、4番に産業経済のこと、5番に歴史文化のこと、それから6番にテクノロジーのこと、そしてもう一つ、生活インフラのことについて述べた方がいいのではないかという意見もあったので、その辺を考えて整理していただければと思う。それではこれで終了する。

[事務局]

・この件については、一旦、事務局でまた整理をし、2回目の起草部会で見えていただけたらと思う。

これで第1回起草部会を終了する。第2回起草部会は3月18日木曜日、14時から15時30分、会場は301会議室、対面式で行うのでご予定いただきたい。